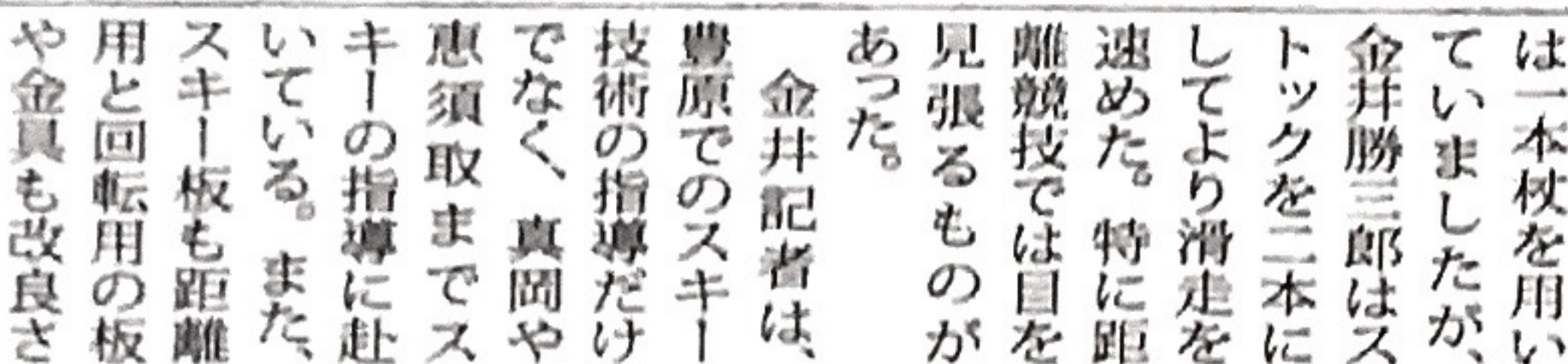
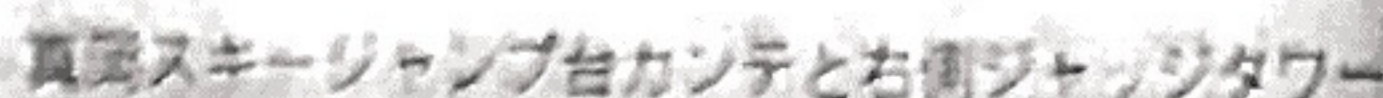


藻岩レルヒ会会長
原田 廣記
(恵須取)

コースは、平地をスキーコースに選り、軍人を中心にしていたが、教員・郵便局員・営林局員にとスキー滑走法が広まていく。日澤中尉は旭川でレルヒ中佐の指導を受けており、スキー技術についての伝承は充実したものでありました。

回転競技コースは、小学
校の横の坂をスキーコースと
飛型を見る審判員用の



は一本杖を用いていましたが、金井勝三郎はストックを二本にしてより滑走を速めた。特に距離競技では目を見張るものがあった。

金井記者は 豊原でのスキー 技術の指導だけでなく、真岡や 恵須取までスキーの指導に赴いている。また、スキー板も距離用と回転用の板や金具も改良されたものが北海道から入荷して、益々スキー技術が発展する。

職場単位に雪
挺（スキー）倶
楽部が出来上が

りましたが、やがて地域としてのスキー倶楽部にまとまり発展していきました。スキー用具は、東京の陸軍砲兵工廠に依頼して製造された板を準備した。

参考資料

櫻太日日新聞
眞岡町史
日本スキー教

齊本(著者 堀
内文次郎少将)
樺太写真帳
又キ―三國志
(著者 瓜生卓
三氏)

スキー 帖序文

「スカー」ハ何ゾヤ余ハ之レニ答フルニ先ツ形而上ノ
解釋ヲ圖テセント欲ス即チ「スカー」ヲ學ブ者ハ神聖ナ
リ「スカー」ヲ知ラザルモノハ天ノ興ル焉ヲノチ爾レサ
ルノ愚人ナリ之ヲ研究セント欲スル人ハ肝腎ニ立チ
前進勇躍ノ希望ヲ有スル人ナリ少クモ一人前ノ勇
ヲ爲サント希望スル人ナリ、ゾハ男子タルト女子タル
トト問ハザルナリ苟モ陰陽ノ忠誠ヲ有レ強健ノ体力
ヲ有クレト心懸タル者ハ「スカー」ノ學ブハ必要ヲ見
出ス堅固性ニ富ムモノナリ崩レ失レ北越ノ天地ヲ有
ノ志ニ對シ其志ヲ合マル、無風ノ快車ト寶蓋トヲ
想スル爲ノニハ唯一ノ利器「スカー」アルノミナル事ヲ
知ラント欲セバ嚴冬隆雪道南嶺山重百回不加一見鳩
呼一萬千風千山萬嶺踏破之快其レ只「スカー」ナル哉「ス
カー」ナル哉、余ハ余國爲「スカー」戀々ノ情ニ堪ヘザル
モノアリ同志ノ士爲邦家「スカー」ニ向テ奮勵アレ、聖唱
々々

明治四十四年 歲次
癸酉 國之 朝

堀 内 少 將

牛一教育本（入牛一研究委員長 堀内文次郎著）

又此一子一解脫

[illegible]

日本に於ける軍制は、大體、陸軍、海軍、空軍、の三つに分れてゐる。其の組織は、大體、大日本帝國憲法に基いてゐる。陸軍は、大日本帝國陸軍と稱する。海軍は、大日本帝國海軍と稱する。空軍は、大日本帝國空軍と稱する。其の組織は、大體、大日本帝國憲法に基いてゐる。

スキー研究員 山口十八大尉の解説による滑走動作